

消化器外科 *Gastroenterological Surgery*

1. スタッフ構成

- 椿 雅光(副院長、医療情報部長、電子カルテ運用管理室長、働き方改革推進室長、患者支援室長)

1988年愛媛大学医学部卒

専門分野:医療情報

資格:日本外科学会認定医・認定登録医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、四病院団体協議会・医療研修推進財団診療情報管理士、日本医師会認定産業医、厚生労働省臨床研修指導医

- 大谷 広美(消化器病センター長、手術センター長、手術部長、改善推進室長補佐、クオリティマネジメント室長)

1989年愛媛大学医学部卒

専門分野:肝胆膵外科、内視鏡外科

資格:日本外科学会認定医・外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医・指導医、日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能指導医、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)肝臓、日本膵臓学会指導医、厚生労働省臨床研修指導医

- 八木 草彦(主任部長、救命救急センター副センター長、消化器病センター副センター長、災害医療部長)

1992年愛媛大学医学部卒

専門分野:上部消化管外科、胃癌、食道癌、内視鏡外科

資格:日本外科学会認定医・外科専門医・指導医、日本消化器外科学会認定医・消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)大腸・ロボット支援手術プロクター(消化器・一般外科)、日本食道学会食道科認定医、日本ロボット外科学会Robo-Doc Pilot(国内B級)、厚生労働省臨床研修指導医

- 吉山 広嗣(部長、がん治療センター副センター長、外来化学療法室長)

1990年愛媛大学医学部卒

専門分野:下部消化管外科、内視鏡外科

資格:日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医、厚生労働省臨床研修指導医

- 渡邊 常太(部長)

1994年愛媛大学医学部卒

専門分野:肝胆膵外科、内視鏡外科、肝移植

資格:日本外科学会認定医・外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能指導医、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)肝臓、日本胆道学会指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本移植学会移植認定医、日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医・外科周術期感染管理教育医、ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター、

厚生労働省臨床研修指導医

- 古手川 洋志(部長、診療情報病歴室長)

1994年愛媛大学医学部卒

専門分野:下部消化管外科、内視鏡外科

資格:日本外科学会認定医・外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医、厚生労働省臨床研修指導医

- 發知 将規(部長、臨床研修センター副センター長)

1997年徳島大学医学部卒

専門分野:下部消化管外科、内視鏡外科

資格:日本外科学会認定医・外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本大腸肛門病学会大腸肛門病専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)大腸・ロボット支援手術プロクター(消化器・一般外科)・技術認定審査委員(大腸班)、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本ロボット外科学会Robo-Doc Pilot(国内A級)、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会ストーマ認定士、Intuitive Surgical Mentor for da Vinci Robotic-Assisted Surgery、厚生労働省臨床研修指導医

- 佐藤 公一(部長)

1998年愛媛大学医学部卒

専門分野:上部消化管外科、胃癌、食道癌、内視鏡外科

資格:日本外科学会認定医・外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)胃・ロボット支援手術プロクター(消化器・一般外科)、日本消化管学会胃腸科専門医・胃腸科指導医、日本食道学会食道科認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本ロボット外科学会Robo-Doc Pilot(国内B級)、厚生労働省臨床研修指導医

- 花岡 潤(部長)

2003年大阪医科大学卒

専門分野:肝胆膵外科、内視鏡外科

資格:日本外科学会外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本肝臓学会肝臓専門医・指導医、日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、厚生労働省臨床研修指導医

- 上野 義智(部長)

2007年島根医科大学卒

専門分野:消化器外科全般

資格:日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、厚生労働省臨床研修指導医

- 渡部 美弥(部長)

2009年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器外科全般

資格:日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)大腸、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本ロボット外科学会Robo-Doc Pilot(国内B級)、厚生労働省臨床研修指導医

○大畠 将義(部長、電子カルテ運用管理室副室長)

2009年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器外科全般、内視鏡外科

資格:日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)胃、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本ロボット外科学会Robo-Doc Pilot(国内B級)、厚生労働省臨床研修指導医

○宇都宮 健(医長)

2010年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器外科全般

資格:日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医、日本肝臓学会肝臓専門医

○徳田 和憲(医長)

2010年徳島大学医学部卒

専門分野:消化器外科全般

資格:日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)胃、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本ロボット外科学会Robo-Doc Pilot(国内B級)、厚生労働省臨床研修指導医

○神崎 雅之(医長)

2012年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器外科全般

資格:日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)大腸、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、厚生労働省臨床研修指導医

○沖川 昌平(医長)

2013年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器外科全般

資格:日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、ICD制度協議会インфекションコントロールドクター、厚生労働省臨床研修指導医

○高田 厚史(医長)

2013年徳島大学医学部卒

専門分野:消化器外科全般

資格:日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、厚生労働省臨床研修指導医

○武原 悠花子(副医長)

2017年徳島大学医学部卒

専門分野:消化器外科全般

資格:日本外科学会外科専門医、厚生労働省臨床研修指導医

○溜尾 美咲(医師)

2018年島根大学医学部卒

専門分野:消化器外科全般

○五葉 海(非常勤医師)

2018年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器外科全般

○石村 菜穂(外科専門研修プログラム専攻医)

2019年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器外科全般

○大野 拓也(外科専門研修プログラム専攻医)

2020年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器外科全般

○河崎 秀樹(診療委託)

2. 実績

主に県内におけるがん拠点病院としての役割と、県民医療の最後の砦となる高度救命救急センターとしての役割を担っています。対象患者の各種併存疾患(脳・血管疾患、循環器疾患、糖尿病等)保有率や高齢化率が高く、高リスク(患者因子、高緊急比率)状況下での診療は年々厳しいものとなっています。センター化に伴い、3 グループ(1.上部消化管、2.下部消化管、3.肝胆膵)でこれらに対応し、専門性、標準化を重視しつつ、低侵襲、緻細な鏡視下手術等を施行しており、ロボット支援手術にも取り組んでいます。直近3年間の総手術件数は、2020年1,584例、2021年1,422例、2022年1,404例で、特にここ2年はCOVID-19関連の手術枠制限の影響を大きく受けました。これは地域の基幹病院としての責務を果たすため、緊急手術、高難度ハイリスク手術遂行機能の維持に注力したため、もともと高かった予定手術以外の緊急症例は2020年405例(25.5%)、2021年500例(35.3%)、2022年556例(39.7%)と増加し、地域のニーズに込えていることが示されています。

(1) 上部消化管(食道、胃、十二指腸)グループ

食道疾患(癌、その他)、胃疾患(胃癌、胃・十二指腸潰瘍等)を対象としています。安全性の確保、進行胃癌に対する化学療法、鏡視下手術の導入、緩和ケア・地域連携の促進は順調に進んでいます。一方、近年急速に広まり社会からのニーズも高くなってきた低侵襲(腹腔鏡[補助]下)手術については食道癌も含め積極的に施行しています。胃悪性腫瘍全体としての手術症例数は過去3年で110例、110例、75例と、2020年度からCOVID-19の影響がみられました。胃悪性腫瘍の鏡視下手術の割合は、2020年105例(80.0%)、2021年91例(82.7%)、2022年62例(82.6%)となっており、ロボット支援手術は44例、51例、36例と安定して実施しています。

(2) 下部消化管(小腸、大腸、肛門)グループ

主に大腸癌(結腸癌・直腸癌)、腸閉塞、炎症性腸疾患、肛門疾患(痔核等)を対象とし、近年積極的に低侵襲(鏡視下)手術に取り組んでいます。大腸悪性手術症例数(鏡視下手術例・頻度)は2020年263例(242例:92.0%)、2021年264例(216例:81.8%)、2022年236例(200例:84.7%)と手術症例数を維持し、鏡視下率も

ほぼ上限に達しています。ロボット支援手術も 45 例、45 例、73 例と増加しております。肛門括約筋機能温存術の適応拡大、術後合併症のさらなる減少にも取り組んでいます。

(3) 肝胆膵(肝臓、胆道、膵臓、脾臓)グループ

肝癌(原発性、転移性)、胆道癌、膵癌、胆石症、脾腫等を対象とし、毎週内科・放射線科・外科・病理の合同症例検討会を開き、手術適応の検討や、術後病理対比等の分析をしています。肝胆膵領域の悪性腫瘍は、切除しなければ予後は 1 年以内であることも多く、根治性と手術侵襲のバランスが重要です。2022 年の手術症例数(2021 年)は、肝切除 94 例(93 例)、膵切除 80 例(64 例)で、膵頭十二指腸切除 47 例(38 例)、膵尾側切除 32 例(26 例)と、COVID-19 の影響を大きく受けた 2021 年と比較し増加しました。胆石、胆嚢炎手術の過去 3 年の手術症例数は、2020 年 292 例、2021 年 242 例、2022 年 252 例で、全国でも有数の手術件数です。『令和 2 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告』によると、在院日数は、肝切除(部分切除術)と胆管癌の膵頭十二指腸切除術では、全国トップの成績でした。鏡視下手術は従来からの胆嚢、脾臓以外でも積極的に導入し、肝切除術では保険適応内症例はほぼ全例腹腔鏡下に切除可能となりました。また腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術は順調に軌道に乗り、全国でも導入施設が少ないロボット支援腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術も開始し、良好な結果が得られています。

(4) 鼠径ヘルニア手術

2022 年の手術症例数は 161 例でした。

■ 手術件数

	症例数	開腹	腹腔鏡下	ロボット
食道癌	11	0	11	
胃癌	65	10	19	36
胃間葉系腫瘍	10	0	10	
胃十二指腸潰瘍	24	21	3	
十二指腸癌	10	9	1	
小腸閉塞・穿孔	77	63	14	
原発性肝癌	60	18	42	
転移性肝癌	16	5	11	
肝門部胆管癌	2	2	0	
遠位胆管癌	7	4	3	
胆嚢癌	13	7	6	
膵癌	47	37	10	
膵腫瘍(膵癌を除く)	11	4	6	1
胆嚢結石、胆嚢炎、ポリープ等	252	21	231	
脾疾患	3	1	2	
結腸癌	153	27	113	13
直腸癌	90	3	27	60
大腸虚血・穿孔	24	23	1	
人工肛門造設・閉鎖	34	24	10	
虫垂炎	71	3	68	
ヘルニア疾患	161	127	34	
中心静脈ポート設置	134	134	0	
その他の疾患	129	74	55	
合計(NCD 数:1,404 例)	1,404	617	677	110

■ 疾患別入院患者数

傷病名	患者数
食道癌	53
胃癌	94
胃 GIST	10
肝細胞癌	50
肝内胆管癌	4
転移性肝癌	21
胆嚢癌	13
胆管癌	17
十二指腸腫瘍(腺腫、NET 等)	14
膵癌	76
膵腫瘍(IPMN、NET 等)	7
結腸癌	212
直腸癌	155
小腸・結腸・直腸腫瘍	4
悪性リンパ腫	8
胆石・胆嚢炎	224
胆嚢ポリープ・腺筋症	24
膵炎・胆管炎	21
上部消化管穿孔	24
下部消化管穿孔	49
腸管虚血症	9
腸閉塞症	81
結腸憩室症	12
虫垂炎	77
人工肛門	9
肛門疾患(直腸脱)	11
鼠径ヘルニア	125
その他のヘルニア	42
外傷	11
食道・胃(その他)	8
肝・胆・膵(その他)	47
小腸・結腸・直腸(その他)	46
炎症性腸疾患	9
その他	49
合計	1,616

3. 2023 年度目標

(1) 上部消化管(食道、胃、十二指腸)グループ

① 安全の確保

低侵襲な手術を行うことに努め、周術期管理を徹底して行い、合併症の減少に努めます。今後の愛媛の外科手術を支える若い外科医の技術向上も図ります。地域における胃癌手術治療のセンター的役割を担う覚悟で診療を行っており、今後さらに手術症例数を増やしたいと考えています。

② 鏡視下手術

現在、食道癌、胃癌、消化管間葉系腫瘍、食道裂孔ヘルニア症例に対して行っています。手技の徹底した定型化による手術時

間の短縮・安全性の確保を図っており、現在は完全腹腔鏡下で実施しています。胃悪性腫瘍の鏡視下手術の割合も、今後、さらに適応拡大したいと考えています。ロボット支援手術も年間 50 例を予定します。

③ 癌緩和ケア・地域連携

緩和ケアは癌診療に不可欠な分野です。地域の医療機関・施設との連携を緊密にし、癌終末期患者の在宅治療を拡充したいと考えています。また、在宅治療開始後も末期癌患者の心の支えになるようサポート体制を充実したいと考えています。

(2) 下部消化管(小腸、大腸、肛門)グループ

① 腹腔鏡下手術、ロボット手術等低侵襲手術症例の増加

2022 年の大腸悪性腫瘍手術の鏡視下手術施行率は 84.7%とほぼ上限に達しており、引き続き維持していきたいと考えています。

ロボット支援手術は 2022 年 4 月の結腸癌への保険適応を受け、結腸癌に対してもロボット支援手術を導入し順調に施行できており、症例数も増加しております。

② 肛門括約筋機能温存術を含めた機能温存手術症例の増加

原疾患が良性疾患の場合、機能温存術は必須です。一方、原疾患が癌の場合、肛門機能の温存と根治性の両立が難しい症例もあります。根治性を損なわない範囲で、より低位の直腸癌に対しても永久的人工肛門が回避できるように努めています。機能温存によって得られる患者さんの利益を考えれば、放射線・化学療法を併用した機能温存術式の積極的導入も考慮したいと考えています。人工肛門を造設した場合には WOC 看護師と共にストーマ外来で管理・指導をしています。

③ 術後合併症のさらなる減少

消化管手術における合併症の中で、縫合不全は生命に関わる可能性もあり、最も外科医を悩ませています。治療には人工肛門造設を余儀なくされる症例もあり、患者さんの QOL(生活の質)は著しく損なわれます。縫合不全を含む合併症のさらなる減少に努めるため、手術の質を維持、改善していきたいと考えています。

(3) 肝胆膵(肝臓、胆道、膵臓、脾臓)グループ

① 手術症例数の確保

消化器内科や放射線科との連携による集学的治療を実施しています。肝細胞癌に対しては、小病変であっても高悪性度が疑われる症例には手術治療を第一選択とし、経皮的治療後の再発、遺残症例に対しても積極的に切除を行っています。膵胆道系疾患については、超音波内視鏡や細胞診等による精細な術前診断を基に治療方針を決定しています。放射線科との連携もさらに強化していく方針です。

② 高齢者や併存疾患のある症例の増加と安全性の確保

最近では高齢者や併存疾患を有するハイリスク症例の占める割合が増加しています。肝胆膵領域の悪性腫瘍は手術不能な場合の予後がきわめて不良であり、長期生存には根治的切除が唯一の手段です。しかし、手術侵襲が過大となりやすい領域であるため、症例ごとに根治度と手術リスクの十分な検討が必要となります。過去の手術症例に対する検討では、膵頭十二指腸切除に関しても術前の適切な症例選択により、高齢者でも若年者と周術期合併症に関してはほとんど差を認めないとの結果が得られています。今後とも手術手技の精度を上げると同時に、個々の症例に応じたきめ細かな対応を目指したいと考えています。

2018 年より SYNAPSE VINCENT を病院全体に先駆けて導入し、肝臓の詳細な立体解剖の把握と同時に、緻細な手術シミュレーションが可能となりました。肝切除時の術中出血量の減少や肝切除後の肝不全防止に活かすと同時に、教育面でも活用を進めていきます。

③ 低侵襲手術への取り組み

胆嚢摘出術をはじめとする良性疾患では、可能な限り reduced port surgery を導入し、単孔式をはじめとして細径鉗子の使用等、整容性の向上を図っています。

腹腔鏡下肝切除術では、ほとんどの人が術後 4 日目までには退院されており、鏡視下率とともにも全国トップクラスの成績です。

ロボット支援腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術に引き続き、ロボット支援肝切除術も積極的に適応を広げていく予定です。

4. 学術関係

(1) 学会発表および講演

1. 沖川昌平、森根裕二、池本哲也、斎藤裕、山田眞一郎、寺奥大貴、中須千春、島田光生. VEGF 阻害は TAM の機能を減弱させる. 第 25 回日本肝がん分子標的治療研究会. 福岡 (2022.1.8)
2. 佐藤公一、八木草彦、脇悠平、石川大地、高木健次、河原田さくら. 当院における胃癌に対するロボット支援下胃全摘術の検討. 第 94 回日本胃癌学会総会. 横浜 (2022.3.2-4)
3. 高木健次、石川大地、脇悠平、佐藤公一、八木草彦、大谷広美、原田雅光. 化学療法後に治癒切除を施行し得た腹膜播種を伴う 4 型胃癌の一例. 第 94 回日本胃癌学会総会. 横浜 (2022.3.2-4)
4. 石川大地、川本貴康. 大腸穿孔における Dirty mass と腹腔内炎症・敗血症性ショックの関連性. 第 58 回腹部救急医学学会総会. 東京 (2022.3.24-25)
5. 上野義智、渡邊常太、石村菜穂、中川祐輔、花岡潤、藤井正彦、大谷広美、原田雅光. IPMN の術前検査所見と病理組織型の関連性についての検討. 第 122 回日本外科学会定期学術集会. 熊本 (2022.4.14-16)
6. 沖川昌平、柏原秀也、島田光生、吉川幸造、徳永卓也、中尾寿宏、西正暁、高須千絵、和田佑馬、良元俊昭、山下祥子、森根裕二. Duodenal-jejunal bypass の術後早期血糖抑制効果に関する検討. 第 122 回日本外科学会定期学術集会. 熊本 (2022.4.14-16)
7. 松木ひかり、渡邊常太、溜尾美咲、沖川昌平、徳田和憲、上野義智、花岡潤、大谷広美、原田雅光. 肝腫瘍の一例. 第 39 回道後腹部画像カンファレンス(AB-CD). 松山 (2022.5.21)
8. 上野義智、渡邊常太、吉川雅登、徳田和憲、脇悠平、花岡潤、藤井正彦、大谷広美、原田雅光. Hyperammonemia secondary to FOLFIRINOX therapy for recurrent pancreatic cancer: A case report. 第 34 回日本肝胆膵外科学会学術集会. 松山 (2022.6.10-11)
9. 脇悠平、花岡潤、吉川雅登、徳田和憲、上野義智、渡邊常太、藤井正彦、大谷広美、原田雅光. Middle-term outcomes of pT1 pancreatic invasive ductal adenocarcinoma: a single center retrospective study. 第 34 回日本肝胆膵外科学会学術集会. 松山 (2022.6.10-11)
10. 原田雅光、吉川雅登、徳田和憲、上野義智、花岡潤、渡邊常太、藤井正彦、大谷広美、河崎秀樹、前田智治. Long-term surgical outcomes of intrahepatic cholangio-carcinoma -A single center retrospective study. 第 34 回日本肝胆膵外科学会学術集会. 松山 (2022.6.10-11)
11. 徳田和憲、花岡潤、吉川雅登、脇悠平、上野義智、渡邊常太、藤井正彦、大谷広美、原田雅光. Usefulness of preoperative chemotherapy for borderline resectable pancreatic cancer. 第 34 回日本肝胆膵外科学会学術集会. 松山 (2022.6.10-11)
12. 花岡潤、吉川雅登、徳田和憲、脇悠平、上野義智、渡邊常太、藤井正彦、大谷広美、原田雅光. Ingenuity of laparoscopic liver resection of S8 dorsal region using preoperative 3D simulation and intraoperative ICG fluorescence navigation. 第 34 回日本肝胆膵外科学会学術集会. 松山 (2022.6.10-11)
13. 原田雅光、渡邊常太、二宮恵子、吉川雅登、松木ひかり、溜尾美咲、沖川昌平、徳田和憲、上野義智、花岡潤、藤井正彦、大谷広美、河崎秀樹、木藤克己、前田智治、松岡欣也. Genomic analysis on hepato-biliary-pancreatic cancer in our institute. Current status and issues. A single center retrospective study. 第 34 回日本肝胆膵外科学会学術集会. 松山 (2022.

- 6.10-11)
14. 大谷広美、渡邊常太、上野義智、吉川雅登、脇悠平、花岡潤、藤井正彦、原田雅光. Tips for segment identification by intraoperative echography in laparoscopic hepatectomy. 第34回日本肝胆膵外科学会学術集会. 松山 (2022.6.10-11)
 15. 渡邊常太、大谷広美、上野義智、花岡潤、藤井正彦、原田雅光. Identifying risk factors for postoperative pancreatic fistula after laparoscopic distal pancreatectomy. 第34回日本肝胆膵外科学会学術集会. 松山 (2022.6.10-11)
 16. 原田雅光、河崎秀樹、吉川雅登、沖川昌平、徳田和憲、花岡潤、渡邊常太、藤井正彦、大谷広美、前田智治、田代征記. Long-term surgical outcomes of intrahepatic cholangiocarcinoma (ICC). Comparison between HBV or HCV positive group and negative group. 第2回 Asia Oncology Association in Seoul. Seoul (2022.6.16-18)
 17. 池内香乃、神崎雅之、徳田和憲、石川大地、渡部美弥、大島将義、發知将規、古手川洋志、吉山広嗣、大谷広美、原田雅光. 腸重積症を発症した小腸炎症性線維性ポリープの2例. 第117回日本消化器病学会四国支部例会. 松山 (2022.6.18-19)
 18. 沖川昌平、溜尾美咲、徳田和憲、上野義智、渡邊常太、大谷広美、原田雅光. 膵体部癌と膵神経内分泌腫瘍が併存していた1例. 第117回日本消化器病学会四国支部例会. 松山 (2022.6.18-19)
 19. 發知将規、河原田さくら、神崎雅之、徳田和憲、石川大地、大島将義、渡部美弥、古手川洋志、吉山広嗣、原田雅光. 進行直腸癌に対するロボット支援下側方リンパ節郭清の検討. 第31回日本癌病態治療研究会. 徳島 (2022.6.23-24)
 20. 大島将義、發知将規、河原田さくら、神崎雅之、徳田和憲、石川大地、渡部美弥、古手川洋志、吉山広嗣、大谷広美、原田雅光. ロボット支援直腸癌手術における肛門機能とQOLの評価. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜 (2022.7.20-22)
 21. 佐藤公一、八木草彦、中川祐輔、高木健次、川本貴康、大谷広美、原田雅光. 肥満を伴う胃癌患者に対するロボット支援下胃切除術の短期成績の検討. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜 (2022.7.20-22)
 22. 渡部美弥、神崎雅之、徳田和憲、大島将義、發知将規、古手川洋志、吉山広嗣、大谷広美. 大腸憩室症による結腸膀胱瘻に対する腹腔鏡下手術19例の検討. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜 (2022.7.20-22)
 23. 徳田和憲、花岡潤、吉川雅登、脇悠平、上野義智、渡邊常太、藤井正彦、大谷広美、原田雅光. Borderline resectable 膵癌に対する術前化学療法の有効性についての検討. 第77回日本消化器外科学会総会. 横浜 (2022.7.20-22)
 24. 原田雅光、名和由一郎、發知将規、杉山圭三、中西徳彦、菅政治. 当院臨床研修センター10年の歩み”救急輪番制から、輪番病院バックアップ体制への移行と改善活動”. 第54回日本医学教育学会. 群馬 (2022.8.5-6)
 25. 大野拓也、疋田貴大、神崎雅之、石川大地、大島将義、發知将規、古手川洋志、吉山広嗣、原田雅光. 下腸間膜動脈の分岐異常症例に対してS状結腸切除術を施行した1例. 第74回愛媛外科学会総会. 松山 (2022.8.6)
 26. 加洲範明、渡部美弥、武原悠花子、佐藤公一、八木草彦、大谷広美、原田雅光. 血液透析患者における胃癌手術成績についての検討. 第74回愛媛外科学会総会. 松山 (2022.8.6)
 27. 溜尾美咲、渡邊常太、沖川昌平、徳田和憲、上野義智、花岡潤、大谷広美、原田雅光. 脾 sclerosing angiomatoid nodular transformation(SANT) に対して腹腔鏡下脾臓摘出術を施行した1例. 第74回愛媛外科学会総会. 松山 (2022.8.6)
 28. 加洲範明、花岡潤、沖川昌平、徳田和憲、上野義智、渡邊常太、大谷広美、原田雅光. GEM/nabPTX 療法を施行したのちに腹腔鏡下膵体尾部切除術を施行し完全奏功が得られた膵体尾部癌の一例. 第10回四国肝胆膵外科フォーラム. 松山 (2022.10.6)
 29. 發知将規、河原田さくら、神崎雅之、徳田和憲、石川大地、大島将義、渡部美弥、古手川洋志、吉山広嗣、原田雅光. 同時性大腸多発癌に対するロボット手術の短期成績の検討. 第77回日本大腸肛門病学会学術集会. 千葉 (2022.10.14-15)
 30. 名和由一郎、神崎雅之、橋さやか、池内祐子、矢野昌代、上田紘太郎、山本浩一、伊藤政志、谷崎智香、森高智典、二宮朋之、原田雅光. 外来がん診療におけるがん性疼痛緩和と指導管理料(麻薬処方患者)算定率の向上. TQM サークル”KEEP 60”とその波及効果. 第6回医療現場におけるKAIZEN 研修会. 広島 (2022.10.22)
 31. 原田雅光. 自治体・愛媛県立中央病院における QMS 構築のためのリーダーシップ①”All for the Patients!!” ②”品質管理(Quality Management System)”を改善の合言葉として. 第9回 Conference for Health Care. 東京 (2022.11.4)
 32. 原田雅光、吉川雅登、川本貴康、名和由一郎、重藤美幸、二宮朋之、菅政治. 消化器病センターにおける医師インシデントレポート提出数(率)の向上. 第60回全国自治体病院学会. 沖縄 (2022.11.10-11)
 33. 池内香乃、原田雅光、斎藤美瑛、井戸田聡、發知将規、重藤美幸、名和由一郎、菅政治. 初期研修医におけるインシデントレポート提出数(率)の向上. 第60回全国自治体病院学会. 沖縄 (2022.11.10-11)
 34. 原田雅光. 愛媛県立中央病院における理想を目指した改善の仕組み創り～Vision, Mission, Core Value and How to solve(Stratgy)～. 第23回フォーラム「医療の改善活動」全国大会. 東京 (2022.11.18)
 35. 渡部美弥、佐藤公一、加洲範明、武原悠花子、八木草彦、大谷広美、原田雅光. 高齢血液透析患者における胃癌手術成績についての検討. 第52回胃外科・術後障害研究会. 静岡 (2022.11.18-19)
 36. 石村菜穂、原田雅光、溜尾美咲、加洲範明、沖川昌平、徳田和憲、上野義智、花岡潤、渡邊常太、大谷広美、二宮朋之、前田智治. ウイルス既感染から見た肝内胆管癌手術症例の臨床病理学的検討. 第118回日本消化器病学会四国支部例会. 徳島 (2022.11.19-20)
 37. 吉山広嗣、河原田さくら、神崎雅之、大島将義、石川大地、發知将規、古手川洋志、大谷広美、原田雅光. 大腸癌化学療法中にMeckel憩室穿孔を来した1例. 第84回日本臨床外科学会総会. 福岡 (2022.11.24-26)
 38. 神崎雅之、橋さやか、山本浩一、上田紘太郎、伊藤政志、谷崎智香、池内祐子、矢野昌代. 外来がん診療におけるがん性疼痛緩和と指導管理料(麻薬処方患者)算定率の向上～令和3年度第10回TQM サークル活動とその後～. 第58回愛媛県立病院学会. 南宇和・Web 開催 (2022.11.28-12.9)
 39. 村上太一、二宮郁、大野敬三、武田晋太郎、日根野清、鳥谷正和、西畑友尋、太田あゆみ、西家望未、重藤美幸、長野しげ子、二宮麻美、原田雅光. 医療安全、働き方改革から見た医師主導 TQM サークル(チーム・オーダー15:00)活動の効用について. 第58回愛媛県立病院学会. 南宇和・Web 開催 (2022.11.28-12.9)
 40. 渡部早人、仙波未樹、原田雅光. 手術室における、5S・カイゼン・TQM サークル活動、そしてJICA サポート. 第58回愛媛県立病院学会. 南宇和・Web 開催 (2022.11.28-12.9)
 41. 二宮郁、松本和寛、稲荷真愛、椿雅光、定本靖司、名和由一郎、原田雅光. 患者情報共有強化・診療の質向上から見た、医師主導 TQM サークル(入院サマリ入れましよう)の効用と、当院の診療録監査システム構築の経緯について. 第58回愛媛県立病院学会. 南宇和・Web 開催 (2022.11.28-12.9)
 42. 溜尾美咲、花岡潤、沖川昌平、徳田和憲、上野義智、渡邊常太、大谷広美、原田雅光. 腹腔鏡下肝十二指腸間膜腫瘍生検にて確定診断を得た形質細胞性腫瘍の一例. 第35回日本内視鏡外科学会総会. 名古屋 (2022.12.8-10)
 43. 沖川昌平、花岡潤、溜尾美咲、徳田和憲、上野義智、渡邊常太、大谷広美、原田雅光. 腹腔鏡下肝 S8 背側領域切除術における正確な領域切除のための当院の工夫. 第35回日本内視鏡外科学会総会. 名古屋 (2022.12.8-10)
 44. 大島将義、發知将規、大野拓也、疋田貴大、神崎雅之、徳田和憲、石川大地、渡部美弥、古手川洋志、吉山広嗣、大谷広美、原田雅光. 若手医師による直腸癌に対するロボット支援下手術—安全性の検討と課題—. 第35回日本内視鏡外科学会総会. 名古屋 (2022.12.8-10)
 45. 大谷広美、渡邊常太、上野義智、松木ひかり、溜尾美咲、疋田貴大、沖川昌平、徳田和憲、花岡潤、原田雅光. 腹腔鏡下肝切除術におけるエコーによる肝区域同定法. 第35回日本内視鏡外科学会総会. 名古屋 (2022.12.8-10)
 46. 發知将規、松木ひかり、武原悠花子、神崎雅之、大島将義、古手川洋志、吉山広嗣、原田雅光. 右側結腸癌に対するロボット支援体腔内吻合における工夫. 第35回日本内視鏡外科学会総会. 名古屋 (2022.12.8-10)
 47. 渡部美弥、佐藤公一、加洲範明、武原悠花子、八木草彦、大谷広美、原田雅光. StageI 胃癌に対するロボット支援下胃切除術の成績. 第35回日本内視鏡外科学会総会. 名古屋 (2022.12.8-10)
 48. 渡邊常太、溜尾美咲、沖川昌平、徳田和憲、上野義智、花岡潤、大谷広美、原田雅光. 当院における胆嚢癌に対する腹腔鏡下胆嚢床切除術の手術手技について. 第35回日本内視鏡外科学会総会. 名古屋 (2022.12.8-10)
- (2) 論文・著書
1. 大谷広美、渡邊常太、上野義智、花岡潤、藤井正彦、原田雅光. 手術手技 腹腔鏡下肝 S8 亜区域切除術の困難性を克服するための工夫 エコーによる区域同定法のコツ. 手術 76 巻 3 号. 313-321 (2022.3)
 2. 渡邊常太、大谷広美、上野義智、花岡潤、藤井正彦、原田雅光. 【肝胆膵外科手術における術前・術後ドレナージ】胆嚢摘出術前・術後ドレナージ. 手術 76 巻 3 号. 267-276 (2022.3)
 3. Shohei Okikawa, Yuji Morine, Yu Saito, Shinichiro Yamada, Kazunori Tokuda, Hiroki Teraoku, Katsuki Miyazaki, Shoko Yamashita, Tetsuya

- Ikemoto, Satoru Imura, Mitsuo Shimada. Inhibition of the VEGF signaling pathway attenuates tumor-associated macrophage activity in liver cancer. *Oncol Rep* 47(4). 71. doi: 10.3892/or.2022.8282 (2022.4)
4. Kazunori Tokuda, Tetsuya Ikemoto, Shoko Yamashita, Katsuki Miyazaki, Shohei Okikawa, Shinichiro Yamada, Yu Saito, Yuji Morine, Mitsuo Shimada. Syngeneically transplanted insulin producing cells differentiated from adipose derived stem cells undergo delayed damage by autoimmune responses in NOD mice. *Sci Rep* 12(1). 5852. doi:10.1038/s41598-022-09838-x (2022.4.7)
 5. Toshiaki Yoshimoto, Mitsuo Shimada, Takuya Tokunaga, Toshihiro Nakao, Masaaki Nishi, Chie Takasu, Hideya Kashihara, Yuma Wada, Shohei Okikawa, Kozo Yoshikawa. Blue light irradiation inhibits the growth of colon cancer and activation of cancer-associated fibroblasts. *Oncol Rep* 47(5). 104. doi:10.3892/or.2022.8315 (2022.5)
 6. 斉藤美瑛、渡邊常太、松木ひかり、上野義智、大谷広美、原田雅光. 脾 sclerosing angiomatoid nodular transformation に対して腹腔鏡下脾臓摘出術を施行した 1 例. *手術* 76 卷 8 号. 1363-1367 (2022.7)
 7. Katsuki Miyazaki, Yu Saito, Mayuko Ichimura-Shimizu, Satoru Imura, Tetsuya Ikemoto, Shinichiro Yamada, Kazunori Tokuda, Yuji Morine, Koichi Tsuneyama, Mitsuo Shimada. Defective endoplasmic reticulum stress response via X box-binding protein 1 is a major cause of poor liver regeneration after partial hepatectomy in mice with non-alcoholic steatohepatitis. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 29(12). 1241-1252. doi:10.1002/jhbp.1142 (2022.12)
 8. Chie Takasu, Masaaki Nishi, Kozo Yoshikawa, Takuya Tokunaga, Toshihiro Nakao, Hideya Kashihara, Yuma Wada, Toshiaki Yoshimoto, Shohei Okikawa, Shoko Yamashita, Mitsuo Shimada. Role of IDO expression in patients with locally advanced rectal cancer treated with preoperative chemoradiotherapy. *BMC Cancer* 22(1). 1263. doi:10.1186/s12885-022-10357-1 (2022.12.5)
 9. Shuhai Chen, Tetsuya Ikemoto, Takuya Tokunaga, Shohei Okikawa, Katsuki Miyazaki, Shinichiro Yamada, Yu Saito, Yuji Morine, Mitsuo Shimada. Newly Generated 3D Schwann-Like Cell Spheroids From Human Adipose-Derived Stem Cells Using a Modified Protocol. *Cell Transplant*. Jan-Dec 31:9636897221093312. doi:10.1177/09636897221093312 (2022)
 10. Yuhei Waki, Masayoshi Obatake, Koichi Sato, Shigehiko Yagi. Modification of book-binding technique during totally laparoscopic distal gastrectomy with Billroth I reconstruction. *J Minim Access Surg*. Oct-Dec 18(4). 625-628 (2022)